



学校だより 12月号 つなぐ



師走が忙しい理由は？

～ 年が改まる前にしたいこと ～

暖かく穏やかに12月を迎えました。学校前の銀杏並木は黄葉のピークをこえたようです。今年の秋も短かったなと思いつつ、雪化粧となった富士山を見るといよいよ本格的に冬を迎えるのかと感じるこの頃です。11月末にこれから迎える入試の時期に備え、私はインフルエンザの予防接種に行きました。報道によると例年より早くインフルエンザの流行期に突入しています。皆さんも手洗いやうがいを行うなど風邪や感染症予防に努め、健康管理をしっかりしましょう。

ところで、皆さんの周りに「年末は忙しい。」と言っている人がいませんか。実際、仕事に追われて忙しい方も多いと思いますが、12月を「師走」という言葉で表現することから私たちは気持ちとして慌ただしさや忙しさを感じているのかもしれませんが。そもそも、なぜ12月のことを師走と呼ぶのか？

「師走」の「師」とは、一般的に僧侶を指し、古くから12月は僧侶が各地で法要を行うために非常に忙しい時期とされてきました。したがって、「師が走る」月として「師走」という名前が付けられたと言われています。ただし、師走の語源は他にも12月が旧暦における1年の最後の月であるため、年が終わるという意味合いの「年果つ」であるとか、何かの仕事が完了するという意味（＝「為果つ」）でも理解されることがあります。一つの言葉の中に多くの解釈が存在し、私たちの生活や感情と深く結びついていることがわかります。日本の年中行事の中で「年越し」というのは特別なものであります。そのために準備で忙しい人も多いでしょう。そのような中でも、私は皆さんに提案したいことがあります。それは新たな年を迎えるにあたり今年がどのような年であったか振り返りをする中で、心の整理をしましょう。12月の学校は定期試験の時期を迎え、学習面における途中経過が評価される時期となります。また冬休みを迎えるにあたり、面談を実施して生活面や進路面とともに振り返りをします。年が改まると言っても学校の1年は翌年3月まで続きますので、この12月の振り返りは大切な時間になります。前向きに行動するためにいったん立ち止まり、もう一段上のステップに上がることができるよう時間を作ってみてください。区切りを大切にしましょう。

私は通勤する中で1日の行動予定を頭の中で整理しながら職場、つまり学校に向かいます。毎日のこととは言え、心身のコンディションはいい日もあれば、今日はちょっと行きたくないなと思う日も正直あります。そのような中、毎朝、グラウンドと野球場の間の人工芝を通りながら、朝から活動する運動部の生徒から1日の始まりを示す「おはようございます」のあいさつをいただく中で気持ちを切り替え、今日もがんばるぞ！と心の中で思いながら、明るい生徒に助けられています。単純なことかもしれませんが、学校にいと常に生徒共にありたい。現場で取り組む先生方の目線に立って、生徒が成長できる環境を整えていきたいという思いが今の私の仕事の原動力です。学校教育は社会の変化が加速する中で社会との結びつきが問われているため、様々な課題が山積していると感じるこの頃です。課題解決を前に一歩立ち止まり、整理をしながら日常を大切にしつつ、新たな道を切り拓いていきたい。次の1年に向けた私の思いです。